

課題対応取組報告書

名称	認知症強化型地域包括支援センター	
提出日	令和 7 年 6 月 16 日	

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等） <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症初期段階の人及びMCIの人を含む、潜在している認知症高齢者を早期に発見し支援に結びつける。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1) 認知症が進行してから発見されると、支援拒否や必要な支援に結びつかず、困難事例化し、支援導入までに時間を見る。 2) 本人及びその家族が、認知症やその他疾病が発症していても、変化に気づかず困っている実感がないため、抱えている課題や症状が重度化してからの介入となることが多い。 3) 認知症初期段階の人やMCIの人を発見したり自分で気づいても「歳相応」、「もう少し生活に困ったら」と考え、適切な制度や社会資源などの支援体制に結びつかない。	
対象	地域住民・民生委員・医療や介護の専門職、金融機関や飲食店などのお店	
地域特性	令和2年度国勢調査をもとに高齢化率は城東区が25.2%で、大阪市全体の高齢化率は25.5%とほぼ変わらない。独居率が高いところでは40%を超えており、認知症の症状がでたらちまち困難事例になることがある。区民や医療・介護の専門職は認知症に関して関心が高く、イベントや研修会の参加率が良い。	
活動目標	1) 認知症高齢者を早期に発見し、早期対応するために認知症相談窓口を周知啓発する。 2) 認知症の初期段階の人やMCIの人から認知症支援困難事例に対しての支援体制を構築する。 3) 認知症の人が暮らしやすいまちづくりを推進する。	
活動内容 (具体的な取組)	1) 市民公開講座、地域アフォーラム、介護予防教室、食事サービス等にて周知活動を行い、認知症映画会、認知症フェスタ等のイベント時に啓発を実施。 2) 医師会、歯科医師会加入の医療機関に「認知症初期相談にかかるアンケート」を実施し、課題を抽出。 3) 認知症支援ネットワーク会議、高齢者支援専門部会、関係者会議等を開催し、関係機関との連携を強化。 4) 地域ケア会議に8回参加し、認知症専門職として情報提供や医療機関への連絡調整等を実施。 5) 月1回キャラバンメント連絡会に参画し、618人が認知症センター養成講座を受講。 6) ステップアップ研修を3回開催し、オレンジセンターに24人が登録。ちーむオレンジセンターは7団体登録。 7) 認知症の方への対応をまとめた冊子を作成し、登録済のオレンジパートナー企業135団体に配布。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1) 身近な地域の教室や講座、イベント等で広く周知活動を行うことができた。また、直接相談だけでなく映画会、講演会、体験型と様々な手法でアプローチすることにより、相談窓口についての認識を深めることができた。 2) 医療機関へのアンケートを通して、認知症の相談対応状況（60%が相談対応）、認知症ケアパスの活用状況を把握できた。会議開催や個別ケース連携により、関係機関との連携強化に繋がった。 3) 認知症センター養成講座・ステップアップ研修の開催やちーむオレンジセンター登録奨励、パートナー企業への情報提供により、地域の認知症理解を促進し、認知症の人が暮らしやすいまちづくりを推進することができた。	
今後の課題	1) 認知症高齢者を早期発見・早期対応するため、認知症相談窓口を地域住民や関係機関向けに周知啓発する。 2) なにわ元気塾などの小地域の集まりへ積極的に出向き、顔の見える関係性づくりを行うことで認知症支援ネットワークの更なる強化を目指す。 3) ちーむオレンジ・認知症カフェの登録や講師派遣を促進し、認知症の人が暮らしやすいまち作りを推進するため社会資源の拡充に取り組む。	